平成 25 年度「デジタル公民館まっさき」
事業報告書

平成 26 年 3 月末日

一般社団法人高度映像情報センター（AVCC）

霞が関ナレッジスクエア（KK2）

平成 25 年度「デジタル公民館まっさき」事業報告

1. KK2「共に考え、共に学ぶ」ボランティア「デジタル公民館まっさき」活動の趣旨

本活動は“民設民営の公民館”霞が関ナレッジスクエアの「人と人の絆づくりと地域の再生」の一環として、自主財源（KK2 の施設貸出収入と自主プログラム参加費収入より充当）により実施した。公民館に期待される、被災からの復興、少子高齢化や過疎化に向けたまちづくりのソフト面の環境整備として、復興に向けた住民の気持ちの醸成、地域コミュニティづくりに資する人づくり、住民の ICT 活用支援に取り組んだ。

具体的には末崎地区公民館にパソコン・インターネット環境を整備し、定期的に学生、社会人、シニアの三世代ボランティア・よそ者チームが現地入りし、ICT の活用のよろず相談、文化・学習・遊びのプログラムの提供、リアルな交流とネットによる交流、デジタル公民館サイトによる活動報告や地域情報の発信等に取り組んだ。

内容的には平成 23 年度から復興支援 IT ボランティア活動を継続する、住民の方の困りごとに寄り添う「PC ネットよろず相談」をベースに、24 年度から取り組んできた高齢者等男性の出番づくりと世代間交流を促進するための竹とんぼ教室、現地講師をお招きしてまっさきの人とよそ者が一緒にお話を伺う「まっさきに学ぶ！」や「気仙に学ぶ！」などで構成、趣旨や目的は十分達成されたとまでは言えないが、3 年間のコツコツ積み重ねてきたことにより、まだ、一部の方方ではあるが、信用され、受け入れられつつある、手ごたえは得られた。

1.1 活動日程

2013 年度全 6 回の活動を以下の日程で行った。年度当初に隔月第 2 土日の活動としてスケジュールを公表し、末崎地区公民館の施設協力や参加希望者が予定を組みやすいように配慮した。

	日程	事前説明会
第１回	2013 年 5 月 10 日(金)～12 日(日)	5 月 8 日(水)
第２回	7 月 12 日(金)～14 日(日)	7 月 10 日(水)
第３回	9 月 13 日(金)～15 日(日)	9 月 10 日(水)
第４回	11 月 8 日(金)～10 日(日)	11 月 6 日(水)
第５回	2014 年 1 月 10 日(金)～12 日(日)	1 月 8 日(水)
第６回	3 月 14 日(金)～16 日(日)	3 月 12 日(水)

以上の他に、6 月（ハネウェル居場所ハウス開所式他、7 月活動打ち合わせ）、8 月（シタボ、普門寺 9 月活動事前打ち合わせ他）、12 月（小中居仮設　1000 年の山古志鑑賞会他、1 月活動打ち合わせ）、2 月（末崎町まちづくり懇談会他、3 月活動打ち合わせ）等、事務局で行っている。

1.2 事前説明会

各回の現地活動に先立ち、毎回、霞が関ナレッジスクエアにて、事前説明会として活動ミーティングを行っている。これには初参加者はもちろんリピーターにも原則出席してもらうこととし、内容としてはメンバー紹介、本活動の趣旨と目的、経緯、現地の情報、スケジュール、活動内容、生活面や運営面の留意事項の共有な

ど。毎回 19：00～21：00 の 2 時程度実施した。

事前説明会[第 2 回]　毎回事前に情報の共有をはかった

1.3　参加者数

活動参加者数は平均 14 名、合計 84 名となっている(事務局 3 名含む)。レンタカー移動の制約があり、東京からの新幹線利用者を 15 名以内に抑えているが、しり上がりに増えているのは、予め日程や活動内容が公開されていること、各回の活動報告や映像コンテンツの公開により関心を持たれたことになどによると思われる。

	ボランティア参加者
第１回	10 名
第２回	14 名
第３回	14 名
第４回	14 名
第５回	15 名
第６回	17 名
	計 84 名（各回平均 14 名）

活動メンバーの募集は、霞が関ナレッジスクエアのサイトを利用して、他の KK2 プログラム同様の方法で行っている。本事業については学生、社会人、シニアの男女で参加者を募集。IT スキルについては日常的にパソコンやインターネット、携帯電話を利用している方であれば、特別のスキルは必要ないとしたが、IT 企業の社員、学生など、復興支援 IT ボランティアの経験者が毎回複数名参加しており、連携・協力体制のベースとなっていた。

1.4　活動概要

1.4.1　活動場所・宿泊場所

活動場所：大船渡市末崎地区公民館・ふるさとセンター

岩手県大船渡市末崎町平林 81

URL　http://www.massaki.jp/

宿泊場所：

① 大船渡市末崎地区公民館・ふるさとセンター

（第 1～4 回活動）

公民館常備の寝袋・毛布を利用して 1F 和室にて宿泊。

入浴施設：碁石温泉 民宿 海楽荘

岩手県大船渡市末崎町字大浜 39

URL　http://www3.ocn.ne.jp/~kairakus/

② 海鮮の宿 ごいし荘別邸「海さんぽ」（第 5 回、第 6 回活動）

岩手県大船渡市末崎町字大豆沢 46 の 1

URL　http://www.umisanpo.jp/

津波で流された民宿ごいし荘が再建され「海さんぽ」として 12 月 9 日オープンしたのを機会に、経営再建を応援するには、本活動でも、まず利用すること（お金を落とすこと）が第一、また、復興に向けた地域ビジネス、宿泊施設の取り組みを体験することも重要と考え、これまでのふるさとセンター宿泊から、第 5 回、第 6 回活動(1,3 月)は「海さんぽ」を利用させていただいた。

集合・解散スケジュール：

各回の現地活動に関わる集合・解散は以下のように行った。

集合：(1)金曜日夜　一ノ関駅に集合し車(レンタカー)で大船渡に移動（新幹線組）

(2)土曜日朝　大船渡市盛バス停に集合し車で移動（池袋発夜行バス組）

(3)土曜日朝　現地公民館に集合(現地組)

解散：(1)日曜日夕方　一ノ関駅まで車で移動し解散

(2)日曜日夕方　現地解散・夜行バス等

。

主な活動スケジュール：

(1) 土曜午前・土曜午後・日曜午前(計 3 コマ、各コマ 2.5～3 時間)　IT ボランティア「PC ネットよろず相談」、「Web メール学習会」。

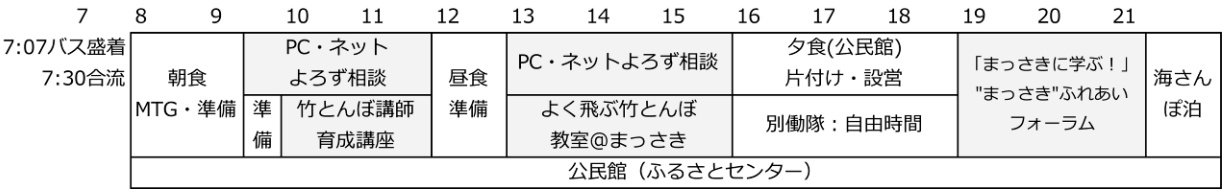
(2) 土曜夜・日曜午後(各 3 時間ほど)　講演会、勉強会、スタディ・ツアーなど「まっさきに学ぶ！」「気仙に学ぶ！」

(3) その他活動　現地視察、竹とんぼ講師育成講座、竹とんぼ教室

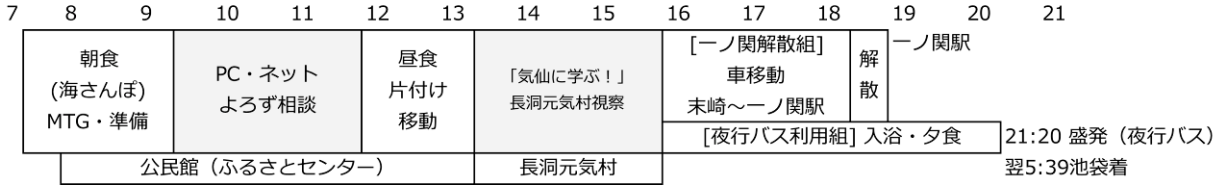
活動スケジュール例(3 月)：

3/14(金)

3/15(土)



3/16(日)



1.5 活動内容

1.5.1 PC ネットよろず相談

パソコンの使い方からインターネットに関して、現地の方々のお困り事にマンツーマンで対応した。

主な対応事例：パソコン入門、デジカメからの写真取り込みから簡単な画像編集(トリミング、リサイズなど)、Word・Excel による文書作成、メールの使い方、ブログや Facebook などの SNS 活用など。

また、Web メール学習会[第 2 回、第 3 回活動]やセキュリティや Skype などのテレビ電話についての全体説明[第 5 回]も併せて行った。

	活動時間	延参加者
第 1 回	7 時間	28 名
第 2 回	8 時間	(*) 25 名
第 3 回	8 時間	(*) 27 名
第 4 回	8.5 時間	28 名
第 5 回	8.5 時間	28 名
第 6 回	9 時間	19 名
	計 49 時間	計 155 名

※ Web メール学習会を含む。延参加者数は、3 コマの各参加者数の合計のため、重複を含む

PC ネットよろず相談の様子[第 2 回]

個別指導で対応[第 4 回]

1.5.2 スタディ・ツアー「まっさきに学ぶ！」「気仙に学ぶ！」

各回、地域のみなさんのお話を伺う「まっさきに学ぶ！」や、スタディ・ツアー「気仙に学ぶ！」を実施した。各回のプログラムの内容および現地講師は下記の通りとなっている。

	まっさきに学ぶ！	参加者数	気仙に学ぶ！	参加者数
第1回	「碁石地区のあの日あの時　そしてこれから」 碁石地区復興まちづくり協議会 大和田東江さん 及川宗夫さん	12 名	陸前高田市 長洞元気村仮設住宅訪問 村上誠二さん（事務局長） 戸羽貢さん（村長）	27 名
第2回	ハネウェル居場所ハウス訪問 「ケセンボケ一座」グローカルばぁちゃんのあの日あの時。暮らしづくりまちづくり 社会福祉法人典人会地域貢献部長	24 名	大船渡津波伝承館訪問 館長（齋藤製菓専務取締役） 齋藤賢治さん	15 名

	熊谷君子さん			
第3回	鮮魚シタボ訪問 村上勝弘さん 村上富士子さん	16名	陸前高田市 普門寺訪問 「法話・五百羅漢プロジェクト・世界レベルの景色・海産物」 熊谷光洋さん（住職）	16名
第4回	映画[1000年の山古志]鑑賞会	46名	「生きるを考える　私たちでできること」 岩手県立高田病院 前院長 石木幹人さん	34名
第5回	「祖父の思いと碁石の未来を描く“海さんぽ物語”」 ごいし荘別邸[海さんぽ] 常務 大和田弘樹さん	36名	「災害復興とこれから醸成したいこと・ライフワーク」 酔仙酒造 会長 金野靖彦さん	32名
第6回	“まっさき”ふれあいフォーラム	25名	陸前高田 長洞元気村 村上誠二さん（事務局長）	18名
		計159名		計142名

1.5.3　竹とんぼ教室支援活動

平成24年度どこ竹@竹とんぼ教室のどこ竹武蔵野三鷹の協力により、まっさきの自主・自立活動に向け大人を対象とした自前講師の育成、および子どもや保護者を対象にした竹とんぼ教室に取り組んできた。25年度もこの活動を継続したことで、26年3月には、現地に認定講師が合計7名が誕生、ボランティア参加者にも5名が認定講師になっていて、まっさきグループ独自の活動もスタートしている。今年度の活動実績としては、竹とんぼ講師育成講座2回、竹とんぼ教室2回を「デジタル公民館まっさき」現地活動で協働・支援したほか、まっさき認定講師グループの独自活動で、陸前高田市のモビリア仮設住宅、気仙大工伝承館からの要請による出前竹とんぼ教室が各1回。居場所ハウスでのミニ門松作り講習1回、その他竹工作勉強会・打ち合わせを4回実施している。また、どこ竹武蔵野三鷹の活動と竹や飾り物の相互支援、交流も行われ、これらの活動を通じてシニアの出番づくりと竹が豊富にある末崎町の特性が生かされている。

講師育成講座[第2回]

竹とんぼ教室[第6回]

1.6　活動報告

各回の活動概要、またボランティア参加者、現地参加者に対し活動に関するアンケートを行いその集計結果・意見をKK2サイトおよびデジタル公民館まっさきサイトにて公開してきた。

また、「まっさきに学ぶ！」「気仙に学ぶ！」他の内容を映像収録し、報告レポートとともにWebコンテンツ

として公開している。

・「気仙に学ぶ！」「まっさきに学ぶ！」について

当初、本年度の活動はボランティアという言葉は使ってはいるものの、いわゆる奉仕活動として行くということを超えて、現地に行き現地の方と交流し、共に学び、共に考える活動、そして地域の人と自分たちが共に担う活動づくりに向けて、毎回、学ぶ！プログラムを企画、土曜日の夜の部を「まっさきに学ぶ！」、日曜日の午後を「気仙に学ぶ！」としてスタートした。

こうした考えに基づいて企画、実施したものの、第 1 回から第 3 回までは、どちらかというと都会暮らしのよそ者が地域に学ぶ、という意識が強く、まっさきの方々と一緒に学ぶ機会として内容を吟味し、参加を呼び掛けを行えておらず、住民の参加は一部に留まった。特に日曜日の午後に組んだ「気仙に学ぶ！」はスタディ・ツアーとしてふるさとセンターから外へ移動して行ったこともあり、5 月のンが洞元気村訪問、7 月の津波伝承館訪問、9 月の普門寺訪問は、大半。都会から現地入りするよそ者活動メンバーへの学習機会の場となった。

まっさきに学ぶ！[第 1 回]

気仙に学ぶ！(元気村語り部ツアー)[第 1 回]

まっさきに学ぶ！[第 2 回]

気仙に学ぶ！[第 3 回]

第 4 回からは現地の方も多く参加(まっさきに学ぶ！)

気仙に学ぶ！[第 4 回]

これらを含め 3 階までのプログラムは、まっさきの方々はすでに良く知っていて、取り立てて一緒に視察したり、学ぶ必要がないことだが、よそ者には地域を理解し、活動参加意識を高めるのに有効と思われる視察と学びのプログラムを組み立てた、とも言える。

ところが、11 月活動で中越地震からの復興のドキュメンタリ映画「1000 年の山古志」観賞会と県立高田病院前院長の石木幹人リハビリテーション科長を講師に「気仙に学ぶ！」を実施するにあたり、会場をふるさとセンターにしたことで、よそ者と地域の人が一緒に学ぶ、感動を一緒に体験する、という路線を明確に意識する転機となった。以降、学ぶシリーズは、公民館は学びのプログラムの開発と提供の場という、本来の役割を見直し、再構築する「デジタル公民館まっさき」活動として 1 月、3 月活動を企画した。

	映像収録	
第 1 回	碁石地区復興まちづくり協議会 大和田東江さん 及川宗夫さん	54 分 31 秒
第 2 回	ハネウェル居場所ハウス 熊谷君子さん	72 分 18 秒
第 3 回	鮮魚シタボ 村上勝弘さん 村上富士子さん	32 分 31 秒
〃	長洞元気村 事務局長 講演 村上誠二さん	41 分 59 秒
〃	陸前高田 普門寺 熊谷光洋さん	75 分 25 秒
第 4 回	高田病院 前院長 講演 石木幹人さん	82 分 5 秒
第 5 回	酔仙酒造 会長 講演 金野靖彦さん	89 分 59 秒
〃	末崎ふるさとセンター 館長 講演 近藤均さん	31 分 55 秒
〃	ごいし荘別邸[海さんぽ] 講演 大和田弘樹さん	46 分 9 秒
第 6 回	長洞元気村 自治会長 講演 村上誠二さん	40 分 15 秒

1 月活動の「まっさきに学ぶ！」で講師に民宿業を再建した「海さんぽ」常務・大和田弘樹さんの講演には自分たちよそ者より、よく知っているはずの地域の人々の関心、講演後の反応も高く、まさに共に学び、共に考えるボランティア活動の一つのモデルを掘り当てた、という手応えが感じられた。

こうして「まっさきに学ぶ！」「気仙に学ぶ！」が好評を得たことで、現地活動のベースとしてきた「PC ネットよろず相談」にも、新しい人が参加してくれるなど、相乗効果が表れた。

気仙に学ぶ！[第 5 回]

まっさきに学ぶ！[第 5 回]

まっさきに学ぶ！[第 6 回]　　気仙に学ぶ！[第 6 回]

まっさきの方々の参加者アンケート結果を紹介すると

「1000年の山古志」		石木幹人氏講演		大和田弘樹氏講演		金野靖彦氏講演	
とてもよかった	26名	とてもよかった	15名	とてもよかった	7名	とてもよかった	5名
よかった	7名	よかった	1名	よかった	6名	よかった	6名
どちらでもない	0名	どちらでもない	0名	どちらでもない	0名	どちらでもない	0名
あまりよくない	0名	あまりよくない	0名	あまりよくない	0名	あまりよくない	0名
よくない	0名	よくない	0名	よくない	0名	よくない	0名
未回答	2名	未回答	2名	未回答	1名	未回答	2名

同ボランティアアンケート結果

「1000年の山古志」		石木幹人氏講演		大和田弘樹氏講演		金野靖彦氏講演	
とてもよかった	6名	とてもよかった	11名	とてもよかった	11名	とてもよかった	5名
よかった	6名	よかった	1名	よかった	2名	よかった	6名
どちらでもない	0名	どちらでもない	2名	どちらでもない	0名	どちらでもない	3名
あまりよくない	0名	あまりよくない	0名	あまりよくない	0名	あまりよくない	0名
よくない	0名	よくない	0名	よくない	0名	よくない	0名
未回答	0名	未回答	0名	未回答	1名	未回答	0名

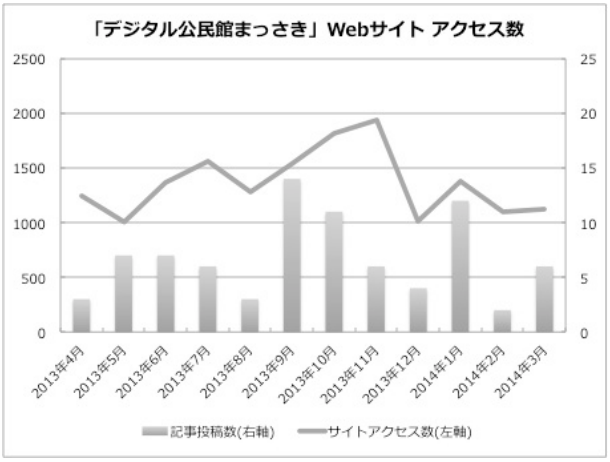
この手のアンケートでは実施者への配慮から高い評価結果となる傾向は否めないが、自由記述にも評価する記述が多く寄せられており、とくに地域の人こそ地域のことに関心があること、その関心は自分たちが考えていたよりも高いこと、また、公民館で学んだり、情報に出会ったりする機会を、地域住民が真に欲していることが見て取れ、それはよそ者と地域の人の心が通い合うことで可能となる、という相互信頼から生まれてきたように思われた。一方、ボランティア参加者側も自分たちだけで学ぶより、条件が許すなら現地の人と一緒に学ぶことのほうがより深く、広がりのある学びになると推察され、学ぶシリーズの意義を改めて確認することとなった。

2. IT 活用支援

2.1 Web サイト運営

Web サイト「デジタル公民館まっさき」(http://www.massaki.jp)にて、情報発信を行った。

- イベント告知
- 毎月刊行の館報を掲載(2011 年 8 月分より)
  公民館担当者と連携をはかり、紙面完成にあわせ、デジタル版の Web 掲載を行っている。
- 館内利用状況を公開
  公民館担当者が更新
- デジタル公民館まっさき活動の案内・報告
- 過去の講演動画の配信
- KK2 のライブ配信動画アーカイブ
- 末崎わかめの情報発信
- 竹とんぼグループの活動



現状サイトアクセス数は約 50 件/日と少なく、運営も KK2 事務局でのみ行っているため、十分な記事投稿・情報発信が行えていない(2013 年度記事投稿総数 81 件)。末崎町の公民館や現地から情報発信する枠組み・記者〈地域レポータ〉の育成が求められる。

2.2 メール

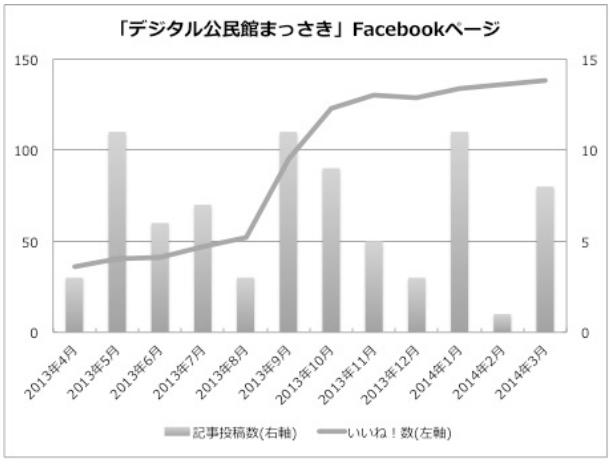
「massaki.jp」のドメインで、現地の方 10 名にメールアドレスの発行を行っている。第 2 回、第 3 回活動では、Web メール学習会を実施し、初めてメールに触れる人への指導を行った。また、メーリングリストを運営し、現地参加者・ボランティア共有のメーリングリスト 46 名を運用し、活動後の交流を継続する枠組みを設けている。従来手紙や電話等でのやりとりであったものを、2013 年度初めて本メールの利用を始め、その後コミュニケーションの円滑化が行えたとの事例も挙げられている(第 6 回活動 “まつさき”ふれあいフォーラムにて 2 件報告)。

2.3 Facebook

「デジタル公民館まっさき」FB（公開）と関係者グループ(非公開)の２つの FB を運用。情報共有と発信を行った。

Facebook ページ〈公開 FB〉:　いいね！数 138

Facebook 関係者グループ：メンバー　36 名(現地 9 名)



2013 年 10 月、11 月は Web サイト「デジタル公民館まっさき」のアクセス数が伸びているが、当時は Facebook ページのいいね！数が伸びており、その利用者からのアクセスが影響していることが見える(当時 Facebook をクリックして公式サイトへのリンク、リファラが増大)。その後、サイトおよび Facebook の更新が伸びなかったため、サイトアクセス数の伸び悩みが見られている。継続的なサイトの管理・更新が必要であるが、併せて Facebook との連携を強化する必要性が挙げられる。

3. デジタル公民館ネット環境の整備

3.1 ネットワーク回線

(1) インターネット環境（2012 年度から継続）

①2012年度にふるさとセンターにADSL 回線を引き無線 LAN-AP を設置しインターネット利用環境整備を行ってきたが、2013 年度では、光回線契約(NTT)に切り替えを行い、円滑なネットワーク活用が可能とした。

また、小中井仮設集合住宅(末崎町字小中井)にも NTT 光回線契約を新たに行い、同所談話室に無線 LAN-AP を設置し、仮設支援員や同住宅の利用者へ利用を開放している。また、談話室から集合住宅各

棟に有線 LAN の敷設を行った[第 1 回活動]。

小中井仮設のネットワーク敷設[第 1 回]

②2012 年度に、公民館 1F 廊下共有スペースに住民が自由に使える常設 PC×2 台を設置（有害サイトフィルター、盗難防止チェーン取付け）したが、2013 年度は小中井仮設集合住宅談話室にも新たに常設 PC×2 台および貸出運用 PC1 台の設置を行った。また、各 PC を Windows XP から Windows 7 への更新を行い、引き続き安心して利用できる環境の整備を行った[第 1 回活動]。

(2) ライブ受講、オンデマンド学習、コミュニケーション環境整備(2012 年度から継続)

③通信衛星 JCSAT-2A を捕捉する CS 受信アンテナ設置

④ライブ受信並びにオンデマンド視聴用 NICE-NET サーバ(STB)設置

⑤既設 TV の音声再生を補強するライブ受信用スピーカを設置

⑥TV 会議装置を接続し Massaki-KK2 間 TV 会議システム整備

(3) WEB サーバ/WEB メールの構築(2012 年度から継続・2 章参照)

⑦IPS 上で Word Press による WEB サイト構築（URL: http://www.massaki.jp/）

⑧IPS 上で WEB メールの構築（****_****@massaki.jp）

(4) デジタル公民館ネット環境の運用(2012 年度から継続)

⑨末崎にネットワーク管理者不在のため KK2-Masaki を VPN 接続し KK2 側から遠隔監視

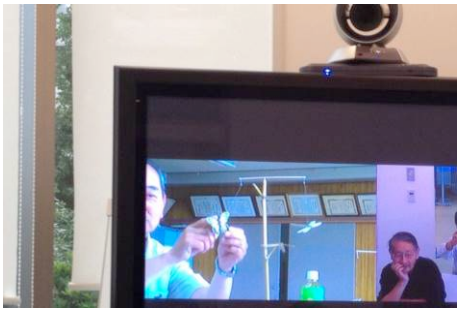
・無線 LAN の正常性確認と利用状況把握

・常設 PC の正常性確認と利用時間把握

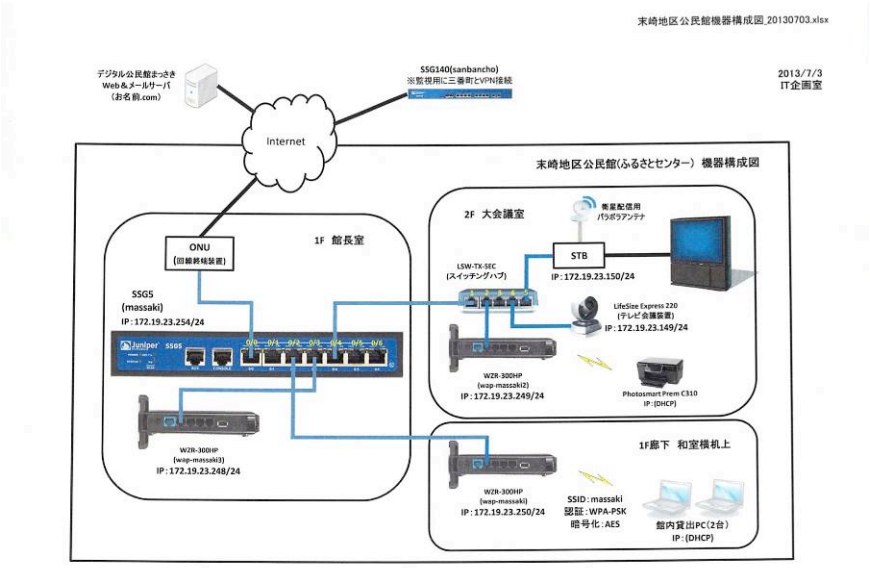
・ルーター、AP、STB、TV 会議の遠隔監視・オペレーション

・WEB サーバ/WEB メールの正常性確認・遠隔監視・オペレーション

⑩末崎地区公民館と霞が関ナレッジスクエアで双方向会議ができるようテレビ会議システムで結び、会議等を実施した。

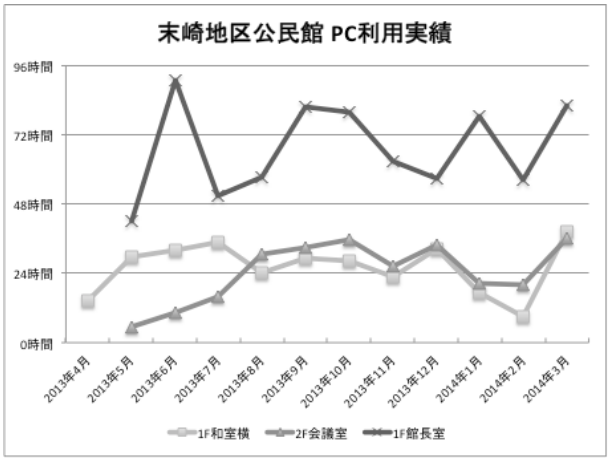


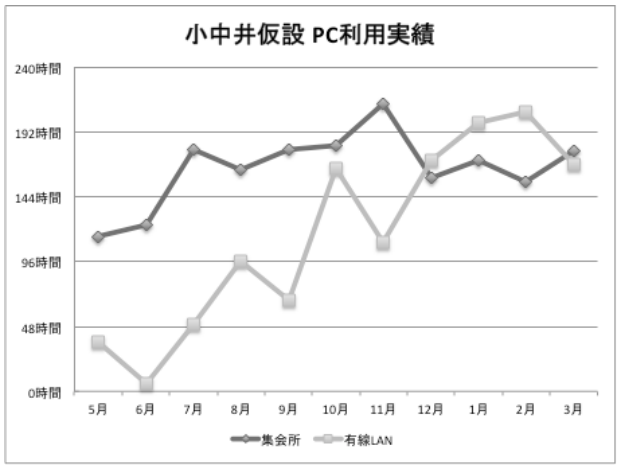
竹とんぼ意見交流を TV 会議で実施(6/14)



3.2 PC 整備・管理

末崎ふるさとセンターおよび小中井仮設集会所に PC を各 2 台常設している。各 PC は、フィルタリング設定を行い、安心して一般利用者が利用できる環境を整備している。また、IT ボランティア活動の円滑な実施のため、PC を 5 台保管している。これら PC は、Windows XP から Windows 7 へアップグレードを済ませ、継続した利用が行える環境にしている。また、小中井仮設談話室のネットワーク整備および有線 LAN 敷設作業を行っている[ともに第 1 回活動]。





4. KK2 番組 衛星ライブ中継

衛星中継受信装置を、「末崎ふるさとセンター・2F 会議室」および「長洞元気村・仮設集会所」に整備し、KK2 エキスパート・スタジオや文化プログラムの衛星中継を行ってきた。また、設置 STB で蓄積したアーカイブ映像を再生できる環境にしてある。開催プログラムは、館報にて末崎地区住民へ告知を行っており、各回案内および収録アーカイブへのリンクをデジタル公民館まっさき Web サイトにて行っている。末崎地区公民

館での現地参加者は下記の通り。

日程	エキスパート・スタジオ	現地参加者
2013年9月6日(金)	野田 弘子さん（公認会計士）	20名
10月7日(月)	杉本 敬三さん（フレンチレストラン　オーナーシェフ）	1名
2014年1月30日(木)	柴田 文啓さん（臨済宗妙心寺派開眼寺 住職）	6名
3月25日(火)	塩谷 靖子さん（ソプラノ歌手）	1名
		小計28名

日程	霞が関寄席	現地参加者
2013年4月26日(金)	神田すずの講談ってこんな話もあるんです！	3名
5月29日(水)	馬吉・駒与志二人会	5名
6月19日(水)	「今そこ演芸会」	4名
7月23日(火)	金原亭若手一門会	3名
8月30日(金)	霞が関笑いの陣	4名
9月18日(水)	立川談慶 独演会	1名
10月30日(水)	金原亭若手一門会	1名
11月29日(金)	今そこ演芸会	2名
12月4日(水)	馬吉・駒与志二人会	3名
2014年1月22日(水)	マジックサロン	4名
2月26日(水)	金原亭若手一門会	1名
		小計31名

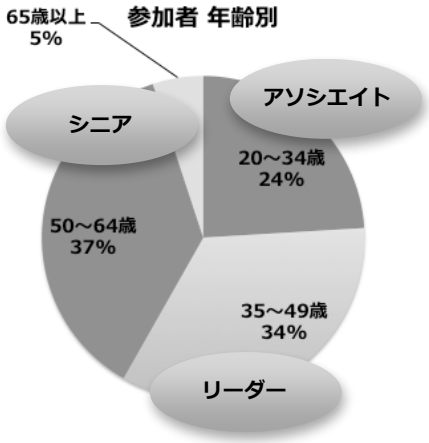
日程	霞が関ミュージックサロン	現地参加者
2013年4月12日(金)	三味線・笛・尺八の世界～古典から現代まで～	7名
7月26日(金)	米内山明宏・佐藤慶子 ～手のアート、見る音楽、聴く音楽～	7名
9月27日(金)	DREAM ALIVE MUSIC!! いつでも夢と音楽を	4名
12月9日(月)	俊英たちによる魅力の弦楽トリオ	1名
3月19日(木)	ソプラノ＆バリトンによるおもしろコンサート	4名
		小計23名

日程	霞が関シアター	現地参加者
2013年6月21日(金)	医す者として	3名
		小計3名
		総計85名

実施結果から参加者が少ないことは否めない。都心のビジネスマンの仕事終了後に合わせて開催している時間帯の問題や商業ベースにはなじまないが、貴重な内容、テーマで企画されたプログラムが生中継されている、ということから、広報とプログラムの両面から見直しが必要と思われる。また、霞が関の公民館とまっさきの公民館の姉妹公民館としての交流・連携、ネットワークを通じた協働、まっさき側のニーズ等の視点から、新しい試みが期待されるところとなっている。その一つとして被災地訪問に熱心な落語家の古今亭駿菊師匠の霞が関寄席登場とライブ中継（11月29日霞が関寄席）やエキスパートスタジオ（9月6日ライブ中継）のゲスト出演者・公認会計士 野田弘子さんの9月活動への参加が実現しており、次年度以降、霞が関文化プログラム、教育プログラム等の出演者・講師のまっさき公民館登場等が期待される。

5.　総括

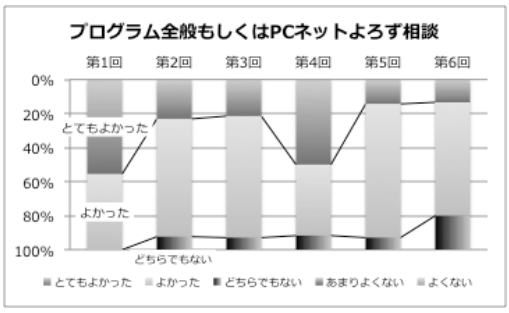
5.1 ボランティア参加者の傾向について



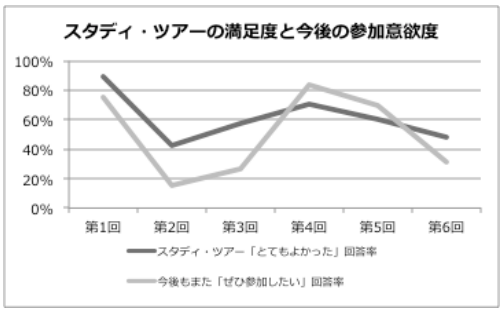
ボランティア参加者の年齢別では、アソシエイト層(20～34 歳)、リーダー層(35～49 歳)、シニア層(50 歳以上)各層が均等に集まった構成となっており、世代を越えてともに学びともに考える活動となっている。

学生参加者数は当初想定(各回 2 名)を下回っている。また、ボランティアメンバーの固定化も進んでおり、リピーター割合が高くなっている(他の東北復興支援のボランティアを含めた初参加率で求めると各回 2 割を下回る)。

5.2 ボランティアへの満足度調査



ボランティア参加者に、プログラム全般もしくは PC ネットよろず相談への満足度を伺った。全体では、「とてもよかった」が 27%、「よかった」が 64%となった(第 1 回、第 2 回は「プログラム全般」に関してのアンケート結果、第 3 回以降はアンケート項目を PC ネットよろず相談とスタディ・ツアーで分けてアンケートを行ったため「PC ネットよろず相談」単体でのアンケート結果となっている)。



各回、ボランティア参加者へはスタディ・ツアー「まっさきに学ぶ！」「気仙に学ぶ！」および「PC ネットよろず相談」各々に対し、5 段階評価でアンケートを行った。また、活動を総括し「また参加したいですか？」と 5 段階評価で伺った。各回それぞれにバラつきのある結果が得られたが、それぞれ最上位の「とてもよかった」「ぜひ参加したい」で比較を行った。「ぜひ参加したい」回答率と PC ネットよろず相談で「とてもよかった」回答率の相関係数 0.66 であるのに対し、「ぜひ参加したい」回答率とスタディ・ツアーで「とてもよかった」回答率の相関係数が 0.81 と高くなる。スタディ・ツアーへの満足度が、PC ネットよろず相談への満足度より強く今後の継続参加意欲に影響していることが伺える。

5.3 現地参加者

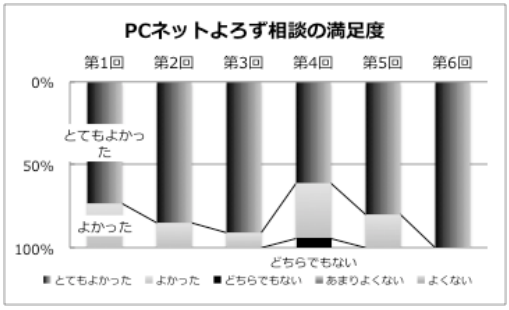
PC ネットよろず相談では、現地参加者(3 コマ延べ)は各回 26 人前後であるが、3 月は 19 名と減っている。これは、3 月は市内のイベント等や漁の最盛期と重なることが原因と考えられるため、26 年度の活動では、3 月を避ける計画とする。

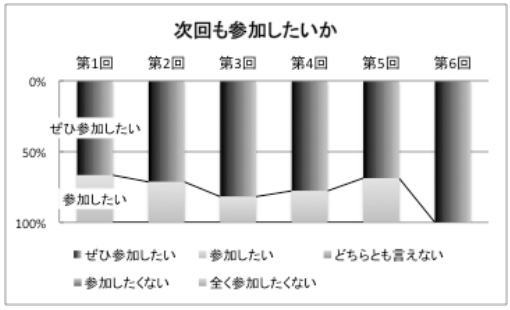
	高齢者率(65 歳以上)	初参加率
第 1 回	80%	8%
第 2 回	76%	25%
第 3 回	67%	11%
第 4 回	(*) 56%	29%
第 5 回	88%	19%
第 6 回	88%	0%

(*) 第 4 回は現地の子供が 4 名初参加

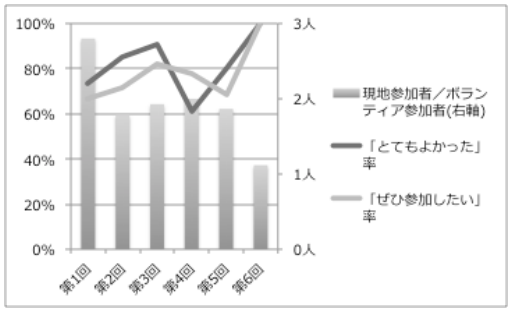
参加者は、高齢者率が高く、リピーター中心の活動になりつつある。アソシエイト層(20～34 歳)、リーダー層(35～49 歳)の参加者数はアンケート集計上それぞれ各回平均 0 名、1 名となっており、若い参加者、新しい参加者が少ない結果となっている。

現地参加者に PC ネットよろず相談の満足度および次回も参加したいかを伺った。総じて、高評価で、5 段階評価で最上位の「とてもよかった」は全体で 79%、「ぜひ参加したい」は全体で 75%となっている。

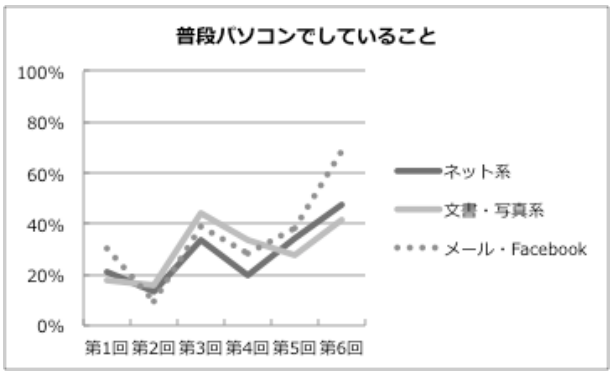




「ぜひ参加したい」割合と現地参加者数との間に逆相関(−0.85)があるなど、参加者数が増えると満足度が低下する傾向があるので、現地の要望に適度した人数を確保する必要があると言える。「ぜひ参加したい」割合と「現地参加者数／ボランティア参加者数」の相関もまた逆相関(−0.79)となっている(満足度の「とてもよかった」割合と参加者との関係も同傾向)。



現地参加者に自宅に PC を持っているか、ネット環境があるかを伺った。累計で集計したところ、PC 所持率は 99%、ネット環境整備率は 89%と、ＩＴ環境を持った人が参加する場となっており、ネット活用が進みつつある。



また、現地参加者に普段パソコンでしていることをネット系[インターネットの閲覧][メール][Facebook][ブロ

グ][ホームページ作成]と文書写真系[文書作成][写真保存][計算ソフト]それぞれについてアンケート調査を行った。その結果ネット系、文書・写真系ともに上昇傾向にある。特に、[メール][Facebook]の 2 項目は利用率が増えてきている(第 1,2 回活動平均 20%、第 3,4 回活動平均 34%、第 5,6 回活動平均 53%)。

今後に向けて（公民館活動の活性化・情報集約発信の強化に向けて）

デジタル公民館まっさきサイトの整備と情報発信

Web ページアクセス・記事投稿件数が増えておらず、事務局発信では限界が出てきている。現地から記事投稿を行う記者や、地域の情報を記者へ伝える連絡係を末崎地区に作っていかないと、広がりが得られない状況にある。そのためにも、簡易に Web に投稿できるフォーマットが必要となる。「デジタル公民館まっさき」サイトにて用意されている複数ブログの開設の方法を用いて、利用者の拡大を図りたい。

また、写真や記事をより気軽に投稿シェアできる枠組みとして、Facebook の拡大も図りたい。Web サイトのサイトアクセス数も Facebook との連動で伸びることからも、Facebook ページ、グループをサイトの各記事へのアクセスの入口として活用するとともに、末崎の情報を集めるツールとして利用し、必要な物を Web サイトの記事や、各利用者のブログとしてまとめることを考える。そのためにも、公民館関係者からの要望を伺った上でのサイトの整備を進めていきたい。施設予約状況のページなどは、公民館担当者により更新が行われているがアクセス数が伸びていないため、より見やすく活用しやすい形態に更新が必要と思われる。

IT ボランティアの役割

IT ボランティアは活動 4 年目となり、ボランティアおよび現地参加者の固定化が進むなど、活動の広がりを作ることが難しくなりつつある。また、活動に際し、現地の方への個別対応のみで、公民館情報発信のサポートをボランティアが担えていないのも問題となっている。従来型の PC の操作や手法の解説指導のみではなく、PC ネットによる新しいスタイル、生活やコミュニケーションの変化を実感し取り入れて貰えるきっかけづくりに注力していきたい。

公民館イベント・地域社会教育のサポート

KK2 文化プログラムの衛星中継では十分な視聴者を集められなかったが、公民館開催の「まっさきに学ぶ！」「気仙に学ぶ！」プログラム(講演会や映画鑑賞会など)は、末崎地区の参加者からも好評を得られている。まちづくり推進や地域公民館・自治会関係者、地域の世話人、住民等の要望を聞きつつ、継続して公民館主催の社会教育・文化プログラムのサポートを行っていきたい。

２５年度デジタル公民館まっさき活動を通じて、総じて言えることは、まだまだ地域コミュニティの再生に向けた、よそ者の活動に末崎地区の方々にお付き合いしていただいている、という構図から脱却できていない、ように思われる。それは現地のニーズと本活動自体がそもそもミスマッチなのか、ニーズそのものはあるが訴

求するうえでの工夫や重要なことが欠けているのか、あるいは他の理由か、気になるところである。

いずれにしても本活動のミッションは、平常時並びに非常時とも地域コミュニティの要であり、自治、社会教育の両面からみても基幹施設であり、人のネットワークの中核でもある公民館の機能をリアルな活動の面で再構築すること、また、合わせてデジタルな活動に取り組むことで、少子高齢化、過疎化が進む地域社会の人と人の絆とコミュニティの維持、再生に、学びを通じてトライすることにある。それには試行錯誤しながらでも、引き続き学びのプログラム開発とその実践を行うことが重要である。遠距離からの移動が伴うため、かけたエネルギーに比べると成果は少ないとも言え、課題は多いが、次年度に繋がる活動はできたと言えるのではないだろうか。地域の人たち、よそ者、まっさき出身者などがバランスよく係わり、継続する活動へ。コミュニティラーニング、社会教育を通じて、引き続き、復興・交流のまちづくりの拠点として末崎地区公民館・地域公民館活動の活性化、モデル化に取り組んでいければと考えている。

次年度の課題は

（１） よそ者がプログラムを企画・開発・提供し、地域の人がそれに参加し、享受する色彩が濃いとスキームから、両者が協力してプログラムを考え、企画し、活動を協働で運営するというスキームへの移行

（２） 参加者が比較的高齢な方を中心とした一部に留まっている現実を打開し、子どもとの係わりづくりや地域の多様な人が参加、連携するプログラムの開発と実施。

（３） 公民館や自治会関係、地域の世話人の方々等が、自分のこととしてICT活用をとらえ、一歩でもこれに取り組むことによるメリット、楽しさをどう伝えるか。

（４） ボランティア参加者のよそ者メンバーもITが得意な人に加え、地域の暮らしづくり、まちづくり、高齢者の出番づくり、子どもの勉強への寄り添い、防災活動、都会と地方の交流等に熱い志をもつ方など、また、学生、社会人、シニアの三世代がバランスよくチーム編成などが望まれる。

以上4項目を挙げてみた。いずれも簡単に実現できるテーマではないが、霞が関ナレッジスクエアのテーマとして引き続き取り組んでいくこととしたい。

一般社団法人高度映像情報センター（AVCC）霞が関ナレッジスクエア
「デジタル公民館まっさき」事務局
〒100-0013 千代田区霞が関3-2-1　霞が関コモンゲート西館奥エスカレータ上がる
電話０３−３２８８−１９２１　　FAX　０３−３２３９−１１２１
霞が関ナレッジスクエア　http://www.kk2.ne.jp/
デジタル公民館まっさき　Webサイト　http://www.massaki.jp/
デジタル公民館まっさきFB　https://www.facebook.com/digitalmassaki